



2021年度のボランティア・ NPO 活動センターをふりかえって

センター長 筒井のり子

本センターは2001年創設以来、さまざまな組織や人々と連携、交流を深め、学内外におけるボランティア活動の振興が図れるように事業を実施してきました。2021年度も前年度に引き続き、コロナ禍の影響によってセンター事業に様々な制限を受けました。しかし教職員や学生スタッフの創意工夫によって多くの事業を継続し、さらに新たな取り組みも生まれました。多くの方々のご協力、ご支援をいただきましたことを改めてお礼申し上げます。

以下、主なものを紹介します。

<ボランティアコーディネートの充実>

コロナ禍においても活動を止めないために、コーディネーターと学生スタッフが協働し、学生・教職員からのボランティア活動希望者の相談に対応しました。またコロナ禍で件数は少なかったものの学外団体からのボランティア募集や運営相談にもコーディネーターが対応し、本学と地域社会をつなぐボランティアコーディネーションを展開しました。

<ボランティアリーダーの育成>

初心者向けの「ボランティア入門講座」（オンライン講座&ボランティア体験）、また「ボランティアリーダー養成講座」を2回開催し、センターの学生スタッフやグループ運営で悩んでいる他サークルのリーダー等へも学びの場を提供することができました。また、深草学舎の教養教育特別講義「ボランティア・NPO入門」（前期）への協力、さらに「ボランティアコーディネーション力3級検定」（JVCAとの共催）も行いました。

<国内・海外体験学習プログラム>

体験を通した「学び」に主眼を置く企画として、国内2つ（福島県と滋賀県近江八幡市）、海外2つのプログラムを実施しました。福島県についてはコロナ感染状況を鑑み、現地訪問はやむなく延期となりましたが、事前学習はオンラインで開催しました。海外についてはオンラインを活用し、NGOスタッフを講師に招いて、カンボジアとアフガニスタンの現状やNGOの活動状況について学ぶ機会を提供しました。

<学生スタッフ企画>

深草・瀬田の両センターの学生スタッフによるボランティア実践やボランティア活動へのきっかけ作りなどの企画として、「ポッチャ体験会」「大津祭広報企画」「深草ふれあいオンライン」など、対面活動、オンラインでの活動、動画作成など多様な形態の活動が生み出されました。また、龍谷祭へのオンライン参加（瀬田）や、独自の展示企画（深草）も行われました。

<災害復興支援の取り組み>

本学では2011年の東日本大震災の発災以降、継続して復興支援活動に取り組んできましたが、前年に引き続き2021年度も被災地に赴いての復興支援ボランティア活動は実施することができませんでした。そこで、9月に被災地の語り部や復興に取り組む市民から話を聴き学ぶプログラム（「震災に学ぶ編」「未来を紡ぐ編」）を2日に分けてオンラインで実施しました。

また、東日本大震災から10年を経過したことにより「東日本大震災等復興支援プロジェクト」が役割を終えましたが、新たに学内に「災害復興支援ボランティア委員会」が設置されることとなり、本センターが引き続き事務局を担うこととなりました。

<その他>

緊急企画として、年度末に「ウクライナ企画～IMAGINE ウクライナを知る・考える」をオンラインで開催し、多くの学生・教職員の参加を得ました。

以上、2021年度は新型コロナウイルス感染状況の変化に応じて、対面活動やオンライン活用などを柔軟に選択しながら事業を展開することができました。with コロナ社会、after コロナ社会では、人と人が出会うこと、現場に出て体験することの重要性を認識してさまざまな工夫をするとともに、オンラインのメリットも生かして新たな活動も創出していきたいと思います。今後とも、ご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。